

(園試大迫試験地)

### 1. 背景とねらい

「紅伊豆」は、長梢棚を用いた長梢剪定法がとられている。この栽培法は、結実安定のために欠かせない樹勢の調節が可能であることから、大粒種を中心とした全国のぶどう仕立て法の主要技術となっている。しかし、整枝剪定に熟練を要し、また、頭上での作業が体であるため、より省力的で軽労化が可能な栽培法が求められていた。このため、省力的・軽労的な仕立て法として、垣根仕立てによる結実の安定化を検討した。

### 2. 技術の内容

- 1) 棚の構造は、改良マツツを変形した垣根で、雨よけトンネルの付設が可能な構造である。作業の大半は胸高の位置で行なうことが出来る(図1)。
- 2) 植栽様式は、機械走行の観点から、列間は3mとする。株間は植え付け当初4m~5mとし、樹冠の拡大に伴って間伐を行い、最終的には3/4間伐の、14~20mとする。
- 3) 樹体の構成(図2)
  - ① 主枝は2本とし、最下段の幹線に誘引して一文字に構成する。
  - ② 結果母枝は、主枝から直接発生した新梢、または前年の結果母枝から発生した新梢の内できるだけ主枝に近く、しかも登熟状態の良い枝を選び、毎年更新する。  
剪定は長梢とし、主幹方向に返して二段目の張り線に、主枝から片側20cm程度の間隔をとって誘引する。
  - ③ 当年発生した新梢は、三段目及び四段目の張り線に誘引する。四段目の張り線から先は、下垂するに任せる。  
平均新梢長は2.0m程度とし、それ以上伸長するものは摘心する。
  - ④ 最終的に残す新梢本数は、片側18~20cm間隔とし、10a当たり3,300本~3,700本とする。主枝から発生した不定芽や、側枝基部から発生した新梢を中心に、1~2割の新梢は空枝として着果させず、次年度以後の結果母枝候補枝として養成する。
- 4) 収量目標は、3,000~3,300房/10a、1房重350~400gとして、1,000~1,500kg/10aとする。

### 3. 指導上の留意点

- 1) 本仕立て法は樹勢の安定化が重要である。発芽から開花期までの伸長状態を良く観察し、芽欠きの時期及び量を適切に判断する。満開時の新梢長で50~70cm程度が、最終新梢長2.0m前後の目安である。
- 2) 2m以上伸びる新梢は、遅伸びや副梢の多発により養分が浪費されるほか、過繁茂となる。一方、1m以下の新梢は葉枚数が不足するほか、枝の登熟が不良となる。
- 3) 樹勢が著しく強いことが予想されるときは、剪定時に犠牲枝(調節枝)を残しておき、開花後に剪除するなどして適樹勢に近づける。
- 4) 本法はトンネル被覆を前提としており、トンネル間は露地状態となるので、黒とう病、べと病などの病害防除は露地栽培に準じて行う。
- 5) 施肥は紅伊豆の標準施肥量とするが、樹勢が強い場合はチッ素を減肥する。

#### 4 試験成績の概要

(試験1) 1987年春植栽樹(2年生苗)。

当初列間3m×樹間5.0m(66.6本/10a)→間伐('93~'94)後3.0m×15.0m(22.2本/10a)。

(試験2) 1991年春植栽樹(1年生苗)。

列間3m、樹間4.4m(75.8本/10a)。植溝(幅1.2m、深さ50cm)にラシート(ニカ製#61009BKG)埋設。

表1 10a換算収量及び果実品質

試験区	仕立	結果母枝2芽短裁剪定							長梢剪定		累積 (平均)
		'88 (2年)	'89 (3年)	'90 (4年)	'91 (5年)	'92 (6年)	'93 (7年)	'94 (8年)	'95 (9年)	'96 (10年)	
1987年 植栽樹	年次 (定植後年数)										
	収量(kg/10a)	496	603	442	516	1,079	812	362	992	1,443	6,745
	房重(g)	371	361	300	246	490	351	225	382	451	353
	粒重(g)	12.4	13.5	16.3	14.2	13.7	16.9	11.7	10.4	11.5	13.4
	糖度(Brix)	14.0	16.8	17.1	16.4	18.2	17.0	16.8	17.2	17.6	16.8
1991年 植栽樹	(定植後年数)					(2年)	(3年)	(4年)	(5年)	(6年)	
	収量(kg/10a)					409	409	515	1,092	1,539	3,964
	房重(g)					371	279	232	354	469	341
	粒重(g)					11.9	15.0	11.2	12.3	11.4	12.6
	糖度(Brix)					17.4	18.2	17.8	18.3	18.4	18.0

表2 収量構成

試験区	年次	項目	1樹収量	換算収量	房重	房数	新梢本数	新梢間隔	着房率(%)
			(kg)	(kg/10a)	(g)	(房/10a)	(本/10a)	(片側;cm)	(房/新梢)
1987年 植栽樹	'95(9年目)		44.7	992	382	2,599	3,489	19.2	74.5
	'96(10年目)		65.0	1,443	451	3,197	3,596	18.5	88.9
1991年 植栽樹	'95(5年目)		14.4	1,092	354	3,085	3,417	19.6	79.5
	'96(6年目)		20.3	1,539	466	3,289	3,770	17.7	87.2

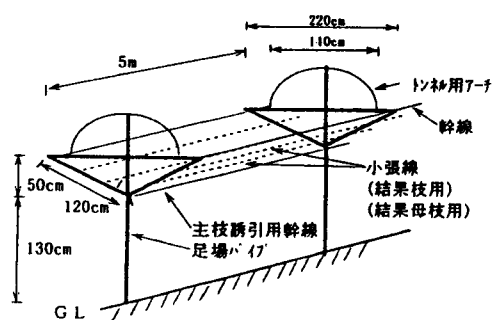


図1 棚の構造

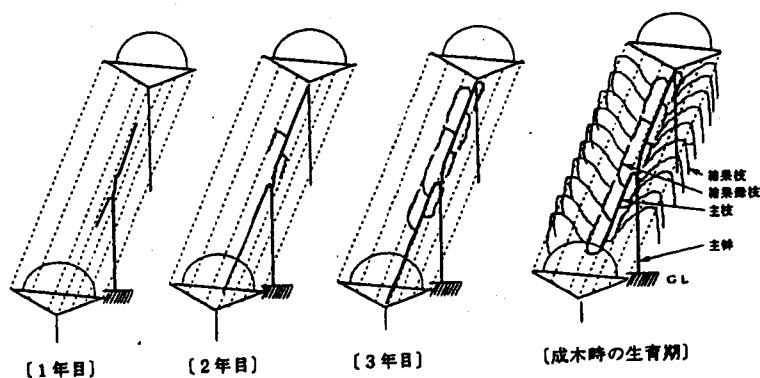


図2 樹体の構成